

# 狂言綺語2010

## ■平成 22 年 11 月 2 日

「中国の文化はとても好きだけど、今の中国の体制が好きではない」。これは、10月24日の報道における石原慎太郎東京都知事の発言である。私は政治に関与することは本意でないけれど、これだけは同意せざるを得ない。これまで仕事や教育で中国人との付き合いが幾度かあった。相手を誑かし、疑念を抱き、自己を正当化する。それに対して適切な対応ができなかったことが悔しい。

中国に対する ODA もまだ続けられていることを最近知った。世界第2の経済大国になる中国に対して、何兆円もの税金が使われていることが理解できない。中国の留学生に対しても、月給や渡航費まで日本が負担している。

二宮尊徳は典型的な合理主義者であつたらしい。その思想は「自己に余裕ができたなら社会に貢献する」と、私は理解している。小学時代はそんなことも知らずにただただ人のために尽くすことを強制された。

菅井ものづくりがっこうで二宮尊徳像をみることができる。ここに狂言綺語は fiction である。

## ■平成 22 年 11 月 7 日

我々の小学校時代は、多数決が民主主義の基本であるかのように教わつた。級長は、勉強や運動能力に長け、遊びの技をほどほどに極めている人気ものが選ばれる。ホームルームというものがあって、遠足や学芸会などの企画を話し合うが、だいたい教師の意向に多数の生徒が同調してしまう。そこには、級長の意思などほとんど反映されない。

社会組織においても階層ごとの会議が頻繁に行われるが、管理職の意向に反して、多数の社員の意見を尊重する風潮が蔓延っていて困ったものである。政界にもいろいろな委員会があるようだが、何を議論しているか知る由もない。自分の意思を主張することもなく、民衆の意見で右往左往する議員もめっきり多くなった。多数決や民意で物事を決めるなら、部長も社長ももいない。

TOKYO MX は、この 11 月 1 日に開設 15 周年を迎えた。5 月に就任した中川謙三社長は、コンテンツ、デジタル化、国際都市東京そしてスカイツリー移転を四輪駆動のジープに例え、自分がハンドルを握って操縦するという。それが将来ジェット機になり上昇していくと豊富を語った。

半蔵門のジャン・ギャバンは浅草の国際劇場で何を演じてくれるのだろうか。若狭の野山を獲物を求め駆けずり回っていた田舎の小学校の級長が、今度は四輪駆動のジープで国際都市東京を駆けずり回る。「お主、匠じゃったのう！」と言う日がくることを楽しみにしている。